

hand in hand

大曲支援学校
地域支援部
令和8年2月6日

hand in hand 勉強会

大曲支援学校がセンター的機能事業の一環として実施している研修会です。

今年度3回目の「hand in hand 勉強会」を10月31日(金)に行いました。大仙・美郷地区の保育園、こども園の先生方11名にご参加いただき、本校職員が使用している教材の紹介を行いました。教材の展示ブースでは、先生方が実際に手に取ったり、園での活用の仕方を検討したりする場面が多く見られ、活気ある研修会となりました。



11月17日(月)は4回目の研修会として大仙・美郷地区の一般企業の方を対象に学校見学会を行い、12名の方にご参加いただきました。当日の意見交換の場面やアンケートでお寄せいただいた感想から、地域の障害理解や障害者雇用についての理解を深める機会となったことが感じられ、うれしく思いました。



12月11日(木)は、大仙・美郷地域等の関係機関を対象にした第5回目の研修会を行いました。研修会には、市町の福祉課や放課後等デイサービス事業所などから、44名の方が参加してくださいました。小学部の参観等を通しての感想や、具体的な要望等をアンケートから伺うことができました。研修会のねらいでもあった、学校と関係機関の「連携」を深める機会となったことが実感できました。

来年度は、教材紹介の勉強会や高校、一般企業向けの見学会などに加え、関係機関向けの見学会を2回に分けて実施したいと考えています。



<令和7年度 きょじゅうちこうこうりゅう 居住地校交流について>

今年度は、小学校15校で39名の児童が、中学校6校で7名の生徒が居住地校交流を実施しました。当日は、笑顔で活動に取り組み、地域の友達と共に学ぶ姿がたくさん見られました。

交流の人数や回数、学習の形態は以下の通りです。

- 小学部→39名 38回実施 ※インフルエンザの流行などにより複数回中止
音楽、体育、図画工作、学級活動、総合的な学習の時間、特別活動
- 中学部→7名 6回実施 ※1名体調不良により中止
音楽、美術、体育、総合的な学習の時間



Y小学校で交流をしたRさんは、「久しぶりに会えたことがうれしくて、友達の名前を呼んで再会の挨拶をしました。」「一緒にじゃんけん列車やボール送りリレーをして、もっと仲良くなりました。」などの活動を通じた感想を発表しました。

K小学校で交流をしたYさんは、「(音楽の授業の中で)昨年度の交流で、みんなと一緒にやったお気に入りのゲームがまたできて嬉しかったです。」と、交流を積み重ねる中で育まれていく関係性や、居心地の良さを感想にまとめました。



○中学校では、「Kさんが安心して活動するために、自分達には何ができるか」について生徒達が自ら意見を出し合ったり、みんなが楽しめるように、ゲームのルールなどにも様々な工夫をしたりして準備を進めたそうです。Mさんは、小学部から9年間、居住地校交流を続け、地域の友だちとの活動を楽しみました。



本校の児童生徒にとってはコミュニケーションや社会性を育む貴重な学びの場であるとともに、相手校の児童生徒にとっても、一緒に支え合う「心のバリアフリー」の芽吹きにつながる経験になってくことを願っています。地域の一員として共に学び、豊かな経験を積む機会をいただき感謝しています。今後ともよろしく願います。

居住地校交流の実施を伴わない障害理解授業も行っておりますので、ぜひ、お声掛けください!

*右のQRコードを読み取ると、大曲支援学校のホームページに進むことができます。

分掌部等のタブから、地域支援部をクリックしていただくと、「入学までの流れ」や「障害理解授業」等の「お知らせ」、「園研修」「hand in hand勉強会」等の「研修」、「本校職員派遣依頼(様式)」や「地域支援部報」等をご覧いただくことができます。



せんもんかんの部屋

ふくでん 福伝ROOM No. 5



教諭(兼)教育専門監 菅原咲希子

切れ目ない支援のために～引継ぎ～

年度末が近付いてきました。就学や進学、就労等で、学びの場や生活の場が変わる子どもたちにとっては、期待と不安の入り交じった時期なのではないでしょうか。特に特別な支援が必要な子どもたちは、対人関係や1日の流れといった環境の変化などにより、新たな困難が生じたり、困難さの状況が変化したりする場合があります。周囲が思う以上に大きな不安や戸惑いを抱えているかもしれません。新しい環境の中でも継続して適切な指導や必要な支援を受け、安心して学校生活を送る中で育んできた力を発揮することができるよう、それまで行ってきた支援を確実に引き継ぎ、一貫した切れ目ない支援を充実させることがとても重要です。確実な引継ぎのための校(園)内支援体制について、秋田県特別支援教育校内支援体制ガイドラインでは次のようなポイントが示されています。(下線は菅原)

確実な引継ぎのための校(園)内支援体制

- ・ 特別支援教育の年間計画への引継ぎに係る計画の明記
- ・ 校(園)内委員会での引継ぎ内容の確認(引継ぎに係る手続きや内容、進捗状況 等)
- ・ 引継ぎに係る手続きに当たる役割分担(担当する教職員の確認)
- ・ 引継ぎに係る日程の調整(教育相談、就学・進学の引継ぎ・事後の確認)



いつ、誰が、何をどのように引き継ぐのかを明らかにし、早期から組織的・計画的に行うことが大切です。長期的な視点に立って、幼児期から学校卒業後までを通じて一貫した支援を行っていくことができるよう、個別の教育支援計画や個別の指導計画等を有効に活用して、子どもの不安に寄り添った丁寧な引継ぎを行っていきましょう。

※秋田県特別支援教育校内支援体制ガイドラインには、校(園)種間における引継ぎのポイントや、就労に係る引継ぎと連携等について掲載されていますので、ご覧ください。

【参照】秋田県教育委員会(R6.3):秋田県特別支援教育校内支援体制ガイドライン(四訂版)

相談・見学等の希望がありましたら、御連絡ください。

秋田県立大曲支援学校

教 頭：佐藤 茂樹(さとう しげき) 川越 真紀子(かわごえ まきこ)

教育専門監：菅原 咲希子(すがわら さきこ)

地域支援部主任：丹波 舞子(たんば まいこ)

特別支援教育コーディネーター：熊谷 道大(くまがい みちひろ) 森 愛子(もり あいこ)

特別支援教育アドバイザー：大沢 貴子(おおさわ たかこ)(大仙市立花館小学校内)

〒014-0072 秋田県大仙市大曲西根字下成沢122

電話：0187-68-4123 FAX：0187-68-4122